



ご利用対象者

- 福岡市内にお住まいの自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、注意欠陥多動性がおよび学習障がいなどの発達障がいがあるお子さんや成人、又はそのご家族の方
- 発達障がいに関わる支援者・関係機関

開所時間

- 月曜日～金曜日 9:00～17:00
※土曜日・日曜日・祝日、年末年始（12月29日～1月3日）はお休みです

利用申込

※ご相談に関する費用は無料です

TEL : (092)753-7411

FAX : (092)753-7412

E-mail : youyou@fc-jigyoudan.org

ホームページ : <https://youyou-center.com/>



知ってください わたしのこと
おしえてください あなたのこと

～発達障がいの理解のために～

サポートブック編

表紙イラスト：「地球と宇宙の仲間達」 中山 慶次郎 さん



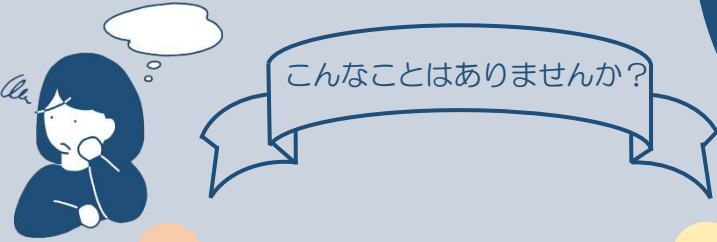
〒810-0073
福岡市中央区
舞鶴1丁目4番13号
福岡市舞鶴庁舎 4階

 **社会福祉法人
福岡市社会福祉事業団**

- 西鉄バス 「長浜一丁目」バス停 徒歩3分
- 西鉄バス 「法務局前」バス停 徒歩5分
- 西鉄バス 「舞鶴一丁目」バス停 徒歩5分
- 地下鉄空港線「赤坂駅」3番出口 徒歩6分
- 地下鉄空港線「天神駅」1番出口 徒歩9分



発達障がいて？



地域の集まりで…



楽しみにしていたお楽しみ会でも急な予定変更が分からず大混乱…
やっぱり行かせない方がよかったのかな…

オフィスにて

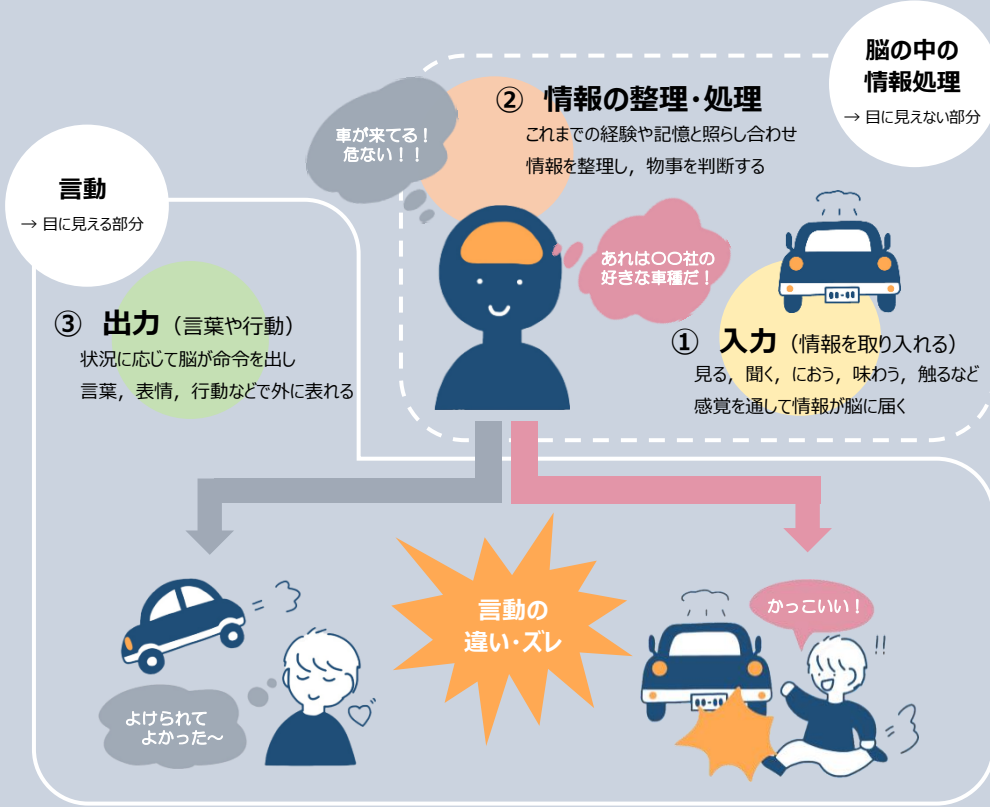


会社で時々独り言を言っている人
他の社員も困っているけど、
どう対応したらいいのかわからない…

発達障害者支援法（平成17年施行，平成28年改正）における定義

「自閉症，アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害，学習障害，注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義

つまり，生まれもった脳の働き方の違いにより，変動の違い・ズレにつながる！
（親の育て方や本人のわがまま，努力不足が原因ではない）



言動

→ 目に見える部分

脳の中の情報処理

→ 目に見えない部分

② 情報の整理・処理

これまでの経験や記憶と照らし合わせ
情報を整理し，物事を判断する

① 入力（情報を取り入れる）

見る，聞く，におう，味わう，触るなど
感覚を通して情報が脳に届く

③ 出力（言葉や行動）

状況に応じて脳が命令を出し
言葉，表情，行動などで外に表れる

- 人はみんな違いがあります。違いが大きすぎることから生じるハンディギャップに対して周囲の理解とサポートが必要な場合に“障がい”と捉えます。
- 違いは人それぞれ。本人への支援方法もひとりひとり異なります。そんな違いを周りの人へ伝えていくためのツールのひとつとして“サポートブック”というものがあります。

発達障がいのある方への
支援ツールの1つとして
サポートブックというものがあります

サポートブックって？

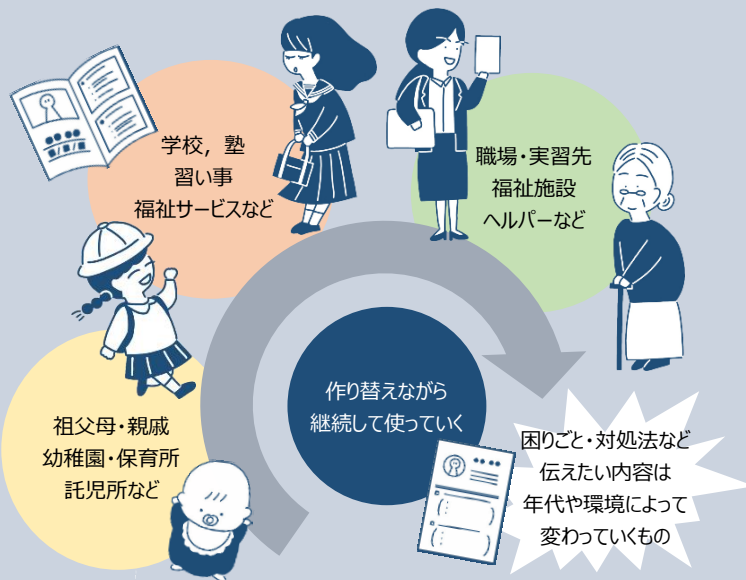
サポートブックがあると…



★ サポートブック とは？

その人の特性に合わせた接し方や、前もって知っておいてほしい情報を関わる人たちへ提供し、共有するためのツールです。保護者や成人期のご本人が文書などで作成することが多く、幅広い年齢や場面で活用できます。書き方や使われ方は様々で、初めて接する人とのコミュニケーションにも役立ちます。周りが正しく情報を共有すると、その人に合った支援に繋がります。

※ **自己紹介シート** **ナビゲーションブック** など呼び方や内容は様々です



脳の働き方の違いは目に見えて分かるものではありません。サポートブックなどを用いて、目に見えない違いを誰が見ても分かるようにまとめることで、周囲の人は **その人を理解しやすく**、本人は **自分のことを伝えやすく** なります。

地域の集まりで…

サポートブック

予定の変更があるときは書いて伝えてもらえると受け止めやすいです

分かりました！

変更です

△△△
□□□
じぶんけん
大会
↑
ピシゴ大会

はーい！

楽しかった！

行かせてよかった

サポートブックで事前に気にかけてほしいことを伝えられたので子どもに合った対応をしてもらえて安心しました

オフィスにて

サポートブック

疲れているときは独り言が増えることがあるので、教えてもらえると気付けます

疲れたのか！

ぼっわー

電車が出発します

独り言が増えてますね、休憩しますか？

ありがとうございます、ちょっと休憩します

いえいえ

本人が疲れていることに気付いていないだけだったということが分かり、周りも対応がしやすくなりました

保護者の想い

成人の息子がいるのですが、
履歴書などを書くときの
自己理解を深めるために
サポートブックは役立ちました。

注意事項だけでなく
好きなことや興味のあることも書いておくことで、
サポートブック自体を
息子のコミュニケーションツールとしても
活用できました。

親として
伝えたいことはたくさんありますが、
相手が見やすい工夫をすることも
重要だと思います。

心配なことを全て伝えるのではなく、
相手にとってどんな情報があれば役立つのか考え
必要な人に必要な情報だけを伝えることが
大切だと気付きました。

うちの子は一番初めが肝心なんです。

失敗から学ぶのは苦手で、
成功を積み重ねた方が身につきます。

だから、「パニックになった後の対処」ではなく
「パニックにならないための工夫」を
サポートブックを通して知っておいてほしいんです。

最初は心配事や出来ないことばかり
頭の中に浮かんでいました。
ですが、書いていくうちにだんだんと良いところや
出来ることも浮かんでくるようになりました。
本人を改めて知っていくきっかけ
もらえた気がします。
今度は本人と一緒に書いてみたいです。

保護者と支援者の認識のズレが
本人の負担になってしまうこともあります。
言葉だけで伝えると、本当に伝えたいことが
うまく伝わらない場合もあります。

なので、
サポートブックのように書いてまとめることで
ズレのない共通理解に繋がるなと思いました。

書いて渡すだけでは
読んでもらえないかもしれない・・・
伝える側もドキドキしています。
要求しているわけじゃないんです。
まず知ってほしい、読んでほしいです。

学校や施設に渡すとき、
公共機関を利用するとき・・・
場面によって伝えたい内容や相手が
変わってくるので難しいです。

サポートブックを作るとしたら
書き方や渡し方、
タイミングも大事ですね。

困ったときのサポートブックというよりも、共通理解を深めたり
人生を豊かにしたりするツールとして活用されることを期待しています。

